

鳥取県生活習慣病検診等管理指導協議会大腸がん部会  
鳥取県健康対策協議会大腸がん対策専門委員会

- 日 時 令和4年2月26日(土) 午後2時～午後3時
- 開催方法 倉吉未来中心 倉吉市駄経寺町  
オンライン開催
- 出席者 21人  
渡辺健対協会長、八島部会長、濱本委員長  
秋藤・岡田・兼本・後藤・田中・富田・細田・柳谷・山本・萬井各委員  
県健康政策課がん・生活習慣病対策室：小林室長、坂本課長補佐、田中主事  
健対協事務局：谷口事務局長、岡本次長、岩垣課長、梅村主事

【概要】

- ・令和2年度は受診率27.6%、要精検率8.9%、精検受診率は76.6%、がん発見率0.29%、陽性反応適中度3.2%であった。受診率、要精検率、がん発見率、陽性反応的中度はいずれも令和元年度より減少した。  
要精検率は国が示す許容値を上回っているが、がん発見率、陽性反応適中度は国の許容値を満たしており、精度は保たれていると考えられる。
- ・令和2年度検診発見大腸がん確定調査の結果、確定癌145例（地域検診35例、施設検診110例）、腺腫2例、その他12例であった。そのうち早期がんは91例、早期癌率は62.8%であった。確定癌は、令和元年度に比べ令和2年度は2割減となっている。
- ・「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針」が一部改正されたことから、鳥取県においても指針に沿って「大腸がん検診実施に係る手引き」の一部改正について協議を行い、改正案のとおり承認された。

挨拶（要旨）

〈渡辺会長〉

コロナ感染者数が連日100名を越しており、東部、西部においてクラスターが何件か発生し、感染拡大が収まっていない状況である。今後徐々に落ち着いていくことを期待しているが、各地域において、感染対策を取り組みながら医療の継続をよろしく願います。

本会議では、令和2年度および3年度の途中経過等を振り返りながら、今後の対策について、協議を進めていただければと思う。75歳未満の年齢調整死亡率については直近のデータではよい兆しも見えており、さらに安定した改善に繋げるために、必要な精度管理を進めていきたいと考えている。本日は幅広い協議をお願いする。

〈八島部会長〉

本日は、休日の中、現地出席及びオンラインでの出席をいただき、御礼申し上げます。

先ほど渡辺会長からもお話があったが、75歳未満の年齢調整死亡率が非常に改善している。今後の推移を注視しないといけないが、委員の先生

方、県そして市町村の方々の協力の上で改善してきたのではないかと思う。本日の会議では大腸がん検診の実績成績を中心に検討していきたい。コロナ禍であっても大腸がん検診事業の推進はしていかなければいけない状況にある。

今回は会議後に従事者講習会もあり長丁場になるが、良い会にしていければと思う。会の運営がうまく行われるようご協力のほど、よろしく願います。

〈濱本委員長〉

本日は週末にお集まりいただき、感謝申し上げます。

鳥取県の大腸がん死亡者が1人でも減るように、本日の会議が有意義なものになることを願っている。是非皆さんから活発なご意見を頂戴して良い会にできればと思う。

本日はよろしく願います。

## 報告事項

### 1. 令和2年度大腸がん検診実績最終報告並びに令和3年度実績見込み・令和4年度計画について

〈県健康政策課調べ〉:

田中県健康政策課がん・生活習慣病対策室主事

〔令和2年度実績最終報告〕

対象者数（40歳以上のうち職場等で受診機会のない者として厚生労働省が示す算式により算定した推計数）は189,132人で、受診者数は52,107人、受診率は27.6%で、前年度比で2.8ポイント減少した。

このうち、40歳から69歳の値（国の地域保健・健康増進事業報告の受診率の算定方法）は、対象者数76,814人、受診者数24,213人、受診率31.5%であった。

要精検者数は4,654人、要精検率8.9%で、令和元年度より0.1ポイント減である。精検受診者は3,563人、精検受診率76.6%で前年度比1.3ポイント減であった。精密検査の結果、大腸がんは149

人で、前年度比41人の減少となった。大腸がん疑いは10人であった。がん発見率（がん／受診者数）は0.29%で前年度に比べ0.04ポイント減であった。また、陽性反応適中度（がん／要精検者数）は3.2%で前年度に比べ0.5ポイント減であった。

要精検率は東部8.2%、中部9.5%、西部9.5%、がん発見率は東部0.258%、中部0.251%、西部0.336%、陽性反応適中度は東部3.1%、中部2.6%、西部3.6%であった。

要精検率は国が示す許容値7%を上回っているが、がん発見率、陽性反応適中度は国の許容値を満たしており、精度は保たれていると考えられる。

〔令和3年度実績見込み・令和4年度計画〕

令和3年度実績見込みは、対象者数189,132人に対し、受診者数は53,085人、受診率28.4%の見込みである。また、令和4年度実施計画は、受診者数54,485人、受診率28.8%を計画している。

〔平成28年度～平成30年度未把握率について〕

未把握率の許容率は10%以下であるが、平成28年度の未把握率7.9%、平成29年度12.1%、平成30年度11.9%で、平成29、30年度は許容値を上回っている。

平成30年度においては、9市町で10%以上を超えており、平成29年度に比べ未把握率が増加している市町がある。

〈鳥取県保健事業団調べ〉：富田委員

〔令和2年度検診実績〕

地域検診は17,181人が受診し、そのうち要精検者数は1,291人、要精検率7.51%、精検受診率78.2%であった。大腸がんは34人発見され、大腸がん発見率0.20%、陽性反応適中度2.63%であった。

職域検診は24,707人が受診し、そのうち要精検者数は1,331人、要精検率5.39%、精検受診率53.3%であった。

大腸がんは21人発見され、大腸がん発見率0.08%、陽性反応適中度1.58%であった。

初回受診者の結果は、例年と同様、要精検率が高く、がん発見率も高い結果であった。

[令和3年度実績見込み(令和3年11月30日現在)]

地域検診の受診者数は14,136人、職域検診は19,478人の見込みである。前年度とほぼ同数となる見込みである。地域検診においては、令和2年度からコロナによる受診控えがあり受診者数が減少しているが、職域検診においてはその影響は見られない。要精検率は、地域検診6.25%、職域検診4.77%であった。

## 2. 令和2年度発見大腸がん患者確定調査結果について：柳谷委員

検診で発見された大腸がん及びがん疑い159例について確定調査を行った結果、確定癌145例(地域検診35例、施設検診110例)、腺腫2例、その他12例であった。そのうち早期がんは91例、早期癌率は62.8%であった。令和元年度の確定癌190例に比べ、令和2年度は2割減となっており、コロナの影響で受診控えがあったことが考えられる。

調査の結果は、以下のとおりであった。

- (1) 性及び年齢では男女とも例年通り65歳以上から癌が多く発見され、70歳代が一番多かった。令和元年度は40歳代から癌が5例発見されたが、令和2年度は2例であり、いずれも早期癌であった。
- (2) 部位では「R」と「S」が60%で、肉眼分類では「2」31.7%であった。早期癌91例の肉眼分類で「Is」「Isp」「Ip」の順で多かった。
- (3) 深達度「m」が46.1%、「sm」が16.6%で、早期癌率62.7%であった。
- (4) Dukes分類は「A」が67.5%、組織型分類は「Well」が53.8%、「Mod」が37.2%であった。
- (5) 治療方法は外科手術が31例(21.4%)、内

視鏡下手術38例(26.2%)、内視鏡治療は74例(51.0%)であった。内視鏡治療の割合が多く、増加傾向である。ただし、外科手術の割合は例年10%程度だが、令和2年度は20%を超えている。

(6) 逐年検診発見進行癌は16例(東部8例、中部3例、西部5例)であった。例年20例以上であるが、令和2年度は確定癌数が少なかった分、逐年検診発見進行癌も少なくなっている。

(7) 令和元年度検診発見進行癌の前年度検査結果を調査した。

令和元年度は20例のうち、17例は便潜血検査結果が陰性で、要精検者1例、前年度未受診は2例だった。

## 3. 各地区大腸がん注腸読影会及び講習会実施状況について(12月現在集計)

各地区とも、注腸読影会の実績はなかった。

〈東部一尾崎委員〉

大腸がん検診従事者講習会は令和3年11月20日から11月21日にかけて行われた「第116回日本消化器病学会中国支部例会」及び「第127回日本消化器内視鏡学会中国支部例会」の開催をもって本講習会とした。

〈中部一山本委員〉

大腸がん検診従事者講習会は、新型コロナウイルス感染防止のため、開催しなかった。

〈西部一細田委員〉

大腸がん検診従事者講習会は3月に開催予定。米子市胃・大腸がん報告会、境港市胃・大腸がん検診報告会・症例検討会をそれぞれ年1回ずつ開催している。

#### 4. その他

##### (1) 75歳未満がん年齢調整死亡率について：

坂本県健康政策課がん・生活習慣病対策室課長補佐

国立がん研究センターが令和2年の75歳未満がん年齢調整死亡率を公表した。鳥取県の男女計の死亡率は、令和2年は68.6（前年79.7）で、前年の44位から23位に改善した。女性の死亡率は48.4（前年61.3）で前年44位から6位へ改善した。

大腸がんの死亡率は7.6（前年10.1）で前年31位から3位へ改善した。

死亡率の増減については、鳥取県は母数が少ないため死亡率の変化が大きくなることから、単年の結果だけでの評価は困難であり、今後の推移を見ていく必要がある。

##### (共通資料)

- ・平成30年の全国がん登録のデータに基づくがん罹患の状況（令和3年6月公表）平成30年に新たにがんと診断された患者は全国で980,856人、鳥取県で5,001人（平成29年4,992人）。
- ・人口10万対のがん年齢調整罹患率は、全国で385.1、鳥取県は411.0（47位：ワースト1位）（平成29年402.7 39位：ワースト9位）。
- ・部位別にみると、男女計：①大腸②胃③肺④乳房⑤前立腺の順で罹患数が多くなっている。（前回と変化なし）
- ・国民生活基礎調査による飲酒量、喫煙率、平成28年国民健康・栄養調査（BMI、食塩摂取量、歩数、野菜摂取量）のデータが示された。コロナの感染拡大により調査が中止となっており、昨年と同じデータである。

##### (2) 令和4年度県予算事業について：

坂本県健康政策課がん・生活習慣病対策室課長補佐

新規事業として、がん予防でがん検診推進パートナー企業のうち、検診機関が出張対応を行わない従業員数が30人未満の小規模事業所等を対象と

した県営職域がん出張検診の予算要求をしている。

#### 協議事項

##### 1. 大腸がん検診実施に係る手引きの一部改正について：

田中県健康政策課がん・生活習慣病対策室主事「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針」が一部改正され、鳥取県においても指針に沿って「大腸がん検診実施に係る手引き」の一部改正について協議を行い、改正案のとおり承認された。令和4年度の検診から適用することとなった。

##### 〈主な改正点〉

- ・3. 検診の対象者に「また、受診を特に推奨するものを40歳以上69歳以下のものとする。ただし、対象者のうち受診を特に推奨するものに該当しないものであっても受診の機会を提供するように留意する。」を追記する。
- ・4. 実施方法に、「(4) 受診者へがん検診の利益、不利益の説明を行うこと。」を追記する。

##### 〈委員からの意見〉

- ・不利益（疑陽性等）の説明について、統一されたものを配布するのだろうか。大腸がん検診の場合は便潜血検査結果であるが、偽陰性や擬陽性等、がん検診に係る不利益の説明の仕方によっては、肺がん検診等読影医の責任の負担が増えるのではないかと。県下統一した説明をして欲しい。また、不利益をあまり強調すると受診率が低下することがないように、慎重に進めて欲しい。  
→各がん検診の共通の事項であることから、総合部会の議題にし、協議・検討を行っている。
- ・検診の案内の中にも、受診を特に推奨する者を40歳から69歳とすると記載するのだろうか。  
→実際の検診の対象者はこれまでどおりである。

## 2. その他

岡田委員から、令和3年度全国がん検診指導者研修（e-ラーニング）の概要報告があった。時期

は未定であるが、プロセス指標がより厳しい基準値になるという話があった。

---

## 大腸がん検診従事者講習会及び症例研究会

**日時** 令和4年2月26日（土）  
午後4時～午後5時5分

**開催方法** ハイブリッド開催  
（現地参加＋オンライン参加）

- ①現地参加会場／倉吉未来中心セミナー  
ルーム3 倉吉市駄経寺町212-5
- ②オンライン参加（Zoomミーティング）  
ハイブリッド開催とし、倉吉未来中心をメイン会場とし、Web会議システム「Zoom」を使用しライブ配信をした。

**出席者** 98名（医師：97名、検査技師：1名）  
（倉吉未来中心：18名、オンライン参加：80名）

岡田克夫先生の司会により進行。

### 講演

鳥取県生活習慣病検診等管理指導協議会大腸がん部会長 八島一夫先生の座長により、鳥取大学医学部統合内科医学講座消化器・腎臓内科学分野 葉裕貴先生による「大腸癌診療の現状と課題」について講演があった。

### 症例提示

八島一夫先生の進行により、症例を報告していただいた。

中部（1例）：鳥取県立厚生病院 加藤雅之先生